

第 23 回 TQM 発表大会参加サークルとテーマ（平成 26 年 9 月 27 日）

第一会場 8 サークル				
No	部署	テーマ	テーマ選定理由	受賞
	サークル名			
1	東 5	明日、くすりがない	東 5 階病棟は内科、外科の混合病棟であり多数の科が混在している。現在私達の病棟では、時間外に内服セットを行なっていることが多いため、患者に早く安心して薬を渡せるようにしたいと思う。内服セットが時間外にならないように業務内容を改善し、患者・看護師の満足度の向上をはかりたいと思いこのテーマにした。	
	HGS GO ! GO !			
2	中央 3	「手術をしてよかった」 その言葉が聞きたい！	当科では、昨年 149 名の患者が人工膝関節置換術（以下 TKA）及び、人工股関節置換術（以下 THA）を受けている。その平均年齢は 74.4 歳と高齢である。TKA、THA は疼痛をやわらげ、QOL の向上を目的として行われる。しかし、QOL が上がるどころか想像以上の疼痛や、手術後すぐに 1 人で動けると思っていたところ行動は制限され、リハビリをしなければ動けないというギャップに、「こんなはずじゃなかった」という言葉が聞かれる。これらの現状を踏まえ、入院前後の患者との関わりを見直すことによって、「こんなはずじゃなかった」という言葉から「手術をしてよかった」と言ってもらえるような取り組みをしたいと思い、このテーマを選定した。	最優秀賞 お客様賞
	チーム コツコツ			
3	南 2A	病棟と透析室が連携をし、時間を有効に使う	南 2A 病棟で平成 26 年 3 月より棟内透析が開始される。透析室に南 2A 病棟スタッフが入ることで病棟内にマンパワー不足が予測さ	
	不要な動きは浄化			

	し隊 ～Kidney レンジャー ～参上～		れている。今後の入院透析を南 2A 病棟で行っていきにあたり、病棟と透析室の業務提携を行い、お互い助け合える病棟運営を目指したい。またこれまでの透析センターと病棟との連携を振り返り、透析患者の透析搬入から病棟帰室までの流れの中でムリ・ムラ・ムダを改善しマンパワー不足による残業増加を防ぎたい。	
4	ハイケア 2 救急 騒音バスターズ	HCU 内の音環境についての改善	HCU に入院される患者さんから音がうるさくて眠れなかったという発言が患者の関わりや記録上で明らかになっている。また、患者満足度アンケート結果からも病室の静けさの項目評価点が 0.5 台と低く、患者に不眠や不快を与えていることが考えられた。TQM 活動を通して音環境改善を行い患者満足度につなげたいと考えこのテーマを選定した。	
5	中央検査部 不安やつつけ 隊！！	輸血当直不安なっしー （～当直帯のレベルアップを目指して～）	日勤帯で輸血業務を行っていない技師が当直帯で輸血業務を行う際、数多くの不安な場面に遭遇することがある。救命センターがある当院では、当直帯も必ず輸血業務が発生し、日勤帯とできるだけ同じレベルで臨床にレスポンスする必要がある。今回、TQM 活動を通して、当直者の不安を少しでも減らし、自信を持って業務にあたることができるようにし、さらに臨床の方にもレベルアップした検査業務を提供できるようにするため。	優秀賞
6	リハビリテーション部 近(地下)リハ！！	病棟と患者さんの近くに ～もっと知りたい♪ 伝えたい♪～	私たちがリハビリテーション室で実施しているリハビリの内容は病棟スタッフに見えにくく、患者さんの情報が他職種と共有されにくい環境にあると思います。また、勤務が 365 日体制へ移行したことでリハビリスタッフ同士でも患者さんについての情報共有がなされ	お客様賞

			<p>にくく、質の変わらないリハビリやサービスを提供しがたい環境が生まれていると思います。こうした問題を解決したく、情報共有をテーマに取り組んでいきたいと思いました。この取り組みにより、病棟での患者さんの生活の質の向上を図ることが出来ると考えます。</p>	
7	<p>臨床工学部 スコープ-007</p>	<p>内視鏡大革命!! ～ BUPPIN ～</p>	<p>内視鏡物品は多種多様であり保管場所も様々である。また、内視鏡センターは新棟稼動に伴い動線が長くなり必要物品を準備するのにどうしても時間を要する。東4階病棟とのローテーションやMEの増員の為、内視鏡物品の場所をうまく把握しづらい現状になると考えられる。また、検査数も年々増加し、内視鏡介助の際素早い対応が求められ、検査時間の遅延などにも影響する。そして、物品管理をしているが行き届いていないという現状があり、最悪の場合物品がないため検査中止の実例も過去にあった。そのため、今回物品の保管場所を明確化し誰もが素早く物品を準備し、物品の管理が行き届くようにすべくこのテーマを選びました。</p>	
8	<p>中央4 Heart to Heart</p>	<p>もっと自分の体を知ってもらおう ～チームコミュニケーションで最適退院指導～</p>	<p>循環器疾患において血圧、体重の変化は病態の重要な指標になる。H25年度の部署内の取り組みとして、退院に向け入院中から血圧・体重の自己管理指導を実施してきた。「家に帰っても頑張ります。」と退院していく患者。しかし退院後も血圧や体重が測定されているのか、手帳が外来受診時に持参されているのかは不明であり、入院時の指導がその後にかかされているとはいえないことがわかった。そこで今回の活動で患者が手帳を持参することで、患者の自己管理意識の向上ができるの</p>	<p>審査員特別賞</p>

			ではないかと考えこのテーマを選定した。患者が安心して在宅での療養生活を送れるよう、チームコミュニケーションを図り、他部署との連携で多方面からのアプローチを取り入れることで退院指導の質を上げていきたい。	
--	--	--	--	--

第二会場 8 サークル				
No	部署	テーマ	テーマ選定理由	受賞
	サークル名			
1	北 5・NICU	★欲しい物にすぐ手が届く★ 探さなくていいんだよ！ 走らなくてもいいんだよ！	NICU 内のスペースが狭く、物品がフロア内にあふれている状態です。院内で NICU だけしか使用しないものが多く、在庫を誤り、なくなってしまった時は大変なことになります。そのため物品管理しにくく、保管場所も把握しにくいいため、忙しいときは、センター内を右往左往しています。整理整頓や物品の管理、また動線を短くして、欲しい物がすぐ手に届くような、素敵な NICU に生まれ変わりたいと思います。	
	NICU のおそうじ ガール			
2	中央手術室	術直後の安全・安楽の 提供を目指して!! ～手術室から病棟へ …～	手術終了後、退室の際は手術室内にてストレッチャーに移乗し、手術室入退室口にて再度病棟のベッドに移乗する。病棟看護師は手術室から退室の連絡を受けてから、ベッドとともに手術室まで迎えに来る。手術室入退室口では、ストレッチャーから病棟ベッドへの移乗を行うことと、病棟看護師への引き継ぎも行う。そのため、患者退室が重なると手術室入退室口が混雑する場面がある。手術終了直後は、患者状態の変動が最も大きい時期であ	審査員特別賞
	サッと もっと			

			<p>る。その為、退室基準を満たすまで手術室内にて麻酔科医が患者状態を確認している。しかし、手術室退室から病棟への移動までは、大部分の患者は客観的に患者状態を把握できる指標を装着していない。そこで今回、手術終了直後の患者状態が変動しやすい時期に、患者状態を客観的に把握できない時間を短縮し、病棟における継続看護へと繋げる活動を行うこととする。</p>	
3	<p>東 6</p> <p>もっとあなたを知りたいっ隊</p>	<p>多職種とのコラボレーション・セルフケアの拡大、これが私達の目標です</p>	<p>脳外科病棟では麻痺や意識障害のある患者が多く、セルフケアの拡大は患者の QOL に関わる重要な課題です。看護師は日々、リハビリスタッフと連携し口頭での情報交換やリハビリカンファレンスを行い、セルフケアの拡大のための援助をしています。しかし共通のツールを活用しての情報交換が行えておらず、患者のセルフケアの把握が遅れ、出来るはずのことを過剰に介助してしまっています。過剰な介助は患者のセルフケア拡大の妨げとなっている可能性があります。そこでセルフケアの客観的な指標としてリハビリや回復期病院で広く用いられている FIM（機能的自立度評価表）を活用し、看護師・リハビリスタッフが情報を共有することで、より適切な看護ケアの提供が出来、セルフケアがより早期に拡大し、早期離床・早期退院に繋がるのではないかと考えました。急性期病院では看護師サイドで FIM を活用している病院は少ないため、今回 TQM 活動をすることにより急性期病院でもより早期にセルフケア拡大ができるようチャレンジしたいと思います。</p>	
4	東 8	go BACK to the	特別室の病棟として今まで様々な職種と患者	

	BBIQ 8 階！！ サービスエリア 拡大	stArting point ～サービスの原点に戻って みんなが光輝くように～	サービスの充実を目指して活動してきた。最近の患者満足度や意見により本当のサービスとは何か考えた。実際に患者から質問したことへの対応が遅い、もう少し早く Dr.に伝えて欲しいなどの意見があった。色んな職種によるチーム医療が行われているが、今回は原点に戻り Dr-Ns 間のコミュニケーションに着目し、どのようにコミュニケーションをとれば患者満足度や業務の効率化の向上に繋がるのか考え活動したいと思い、このテーマを選定した。	
5	南 3B フレッシュ南 3B	内服ボックスセット作業に関わる時間短縮への取り組み ～ベッドサイドケアの充実を図る～	当病棟では木曜日に臨時処方薬が集中してオーダーされ、内服ボックスセット作業に時間を要している。内服ボックスセット作業によるストレスを感じており、セット作業は時間外で行っているのが現状である。内服ボックスセット作業はナースステーションで行っているために、看護師がベッドサイドにいる時間が少なくなりベッドサイドケアの充実につながらないことも考えられる。看護部の目標である時間外の削減とベッドサイドケアの充実、患者に寄り添うケアにつなげるために、このテーマに取り組むこととした。できれば時間内でセット作業をしても、時間通りに終わらせたい。	
6	画像診療科外来 患者さんの心をつかみたいなっし ～♡	私達は PAtient First を考え続けます ～業務優先？ いいえ、大切なのは患者様です～	私達は、患者さんの気持ちに寄り添えるためには？と常に日頃より語り合っている。私達の自己満足にならないような言葉かけは？接し方は？しかし、いつも、それが良いことなのか？もっと自分達にできることはないのか？と行き詰ってしまう。そこで、昨年、患者さんの気持ちを少しでも知る為に、全スタッフで患者体験を行った。その中で、アンギ	優秀賞 お客様賞

			<p>才室における患者さんの不安や気持ちを考えながら行っているつもりだったが、医師がアンギオを開始できるように患者優先ではなく業務優先になっているのではないかと感じた。そこで、今回、アンギオ開始の前工程を含めた業務を見直すことで、患者さんと接する時間を増やし、患者さんに近づくことで、安心して検査・治療を受けられるために私達は何ができるかを考え続けていきたいと思い、このテーマを選択した。</p>	
7	東4救急 Project, 『H』	<p>「早く家族に会わせたいっ…!!」 ～1分でも早く安心を～」</p>	<p>循環器・内科救急病室は平成25年5月に発足し、10月に8床全稼動となった新しい病棟である。平均在院日数：約2.4日で入退院が激しく業務が複雑化している。緊急入院後、観察や様々な処置があるため、入院してから家族面会ができるまでに時間を要しており、患者も家族も不安なまま待機していることが多い。今後更なる増床にむけて業務の統一を行い、コ・メディカルとの連携を図ることで、入院後の業務がスムーズとなり、私たちの目指す患者と家族へよりよい看護を提供することに繋がると考えた。</p>	
8	薬剤部 業務の鉄人	<p>進撃の薬局 ～外来患者さんの服薬 アドヒアランス向上を目指して～</p>	<p>飯塚病院薬剤部では、1日平均約900名の外来患者に薬剤を交付している。外来患者への薬剤の情報提供は、薬袋や指示書（薬の説明書）の添付など、文章によるものが主であり、一部の処方内容に対しては薬剤師による対面での患者指導を行なっている。現在の状況では、薬剤に関する問合せも多く、入院時の残薬確認において飲み間違いや飲み忘れなどが発見されることもある。薬剤師による情報提供を充実させることで、当院外来患者の服薬アドヒアランスの向上とより適切な薬物治療</p>	<p>最優秀賞</p>

			の提供に貢献できるのではないかと考え、今回このテーマを選定した。	
--	--	--	----------------------------------	--

第三会場 7 サークル				
No	部署	テーマ	テーマ選定理由	受賞
	サークル名			
1	診療情報管理室	ム沢山ダイエット ～電子カルテ関連書式の紙保管の削減～	電子カルテ稼動後、一年が経過し、紙カルテからの書式移行も一段落したが、保管書式(同意書など)の保管スペースが稼動前の予測を超えて増え続けている。その理由として、[1]各部署から回収する保管書式の中に保管不要書式が混在していること [2]保管書式の種類と枚数の多さが挙げられる。そこで、保管量の削減と保管に係るスタッフの労力の削減を目指し、「電子カルテ関連書式の紙保管の削減」を活動テーマとして選定した。	優秀賞
	ム沢山			
2	北7	患者が笑顔で帰る スタッフも笑顔で変える	当病棟は昨年、外科系女性病棟として新設され、異動看護師と新人看護師が半数を占めている。主な診療科は婦人科・泌尿器外科・乳腺外科・呼吸器外科の4科だが、他の外科系、内科系を問わず診療科が多岐に渡っているため、スタッフも業務に追われている。患者からはスタッフによって対応が違う事による不安やクレームが聞かれる。開設1年を経過した今、患者サービス向上と職場環境を整理するため笑顔と変化をキーワードにこのテーマに取り組むこととした。	
	ななかいクローバーZ			
3	ICU/CCU	保清を補正	ICUでは重症患者が集中治療を受けており、治療上入浴は困難である。現在は全ての患者に毎日の蒸しタオルによる全身清拭と陰部洗	
	ダーティ♡セブ			

	ン		<p>浄を行っており、入院が長期化し、更に状態が安定している患者には石鹸清拭・手浴・足浴・洗髪を行っている。しかし、ICUに入院している患者は全身状態が不安定な患者が多く、保清のケアを行うことでバイタルサインに変動をきたすこともある。そのため、患者の状態に応じた個別性のある保清の援助をICUスタッフ全員が行えることを目的とし、このテーマとした。</p>	
4	<p>総合診療科・北8・南1A・西3</p> <p>NO NO CALL</p>	<p>みんなで減らそうムダコール！</p> <p>～つながるチームの輪～</p>	<p>現在、NsがDr.へコールをする際、必要に迫られてコールをする機会が多いが、つながらない・すぐに指示が出ないなどの現状がある。何度もムダにコールをしていることで看護業務の中断がある。同様にDr.もコールが鳴ることでカンファレンスを中断したり、また処置・外来の中断で患者へ影響を及ぼす現状がある。これらの事から、今回お互い効率的に業務が進むよう良好なコミュニケーションがはかれ、患者に被害を及ぼす事なくムダなコールを減らすことを目標にTQM活動を取り組みたい。</p>	お客様賞
5	<p>情報システム室</p> <p>チーム メガネ B-)</p>	<p>ヘルプデスク業務の改善</p>	<p>情報システム室ではヘルプデスクを開設し、システムや機器に関するサポートを行っております。情シススタッフ25名のうち10名が持ち回りで担当していますが、当番の日は問合せの対応に追われ、システム変更などの通常業務ができないとの声があがっています。そこで現在の業務を見直し、問い合わせに対応する時間を短縮することで、スタッフの業務負担を軽減したいと考え、このテーマを選定しました。時間短縮が、更なる現場へのサービス向上に繋がればと思います。</p>	審査員特別賞

6	広報室 ななつ星	みんなの愛読書 『院内報 WITH』	広報室では毎月 1 日に職員向け広報誌「院内報 WITH」を発行している。広報室メンバーの労力、発行にかかる費用は決して少なくないが、読者からの反響を感じることはあまりなく、2008 年度に行ったアンケート調査を最後に、効果測定を行っていないため、自分たちが作ったものがどのくらい読まれているのか、WITH 発行の目的が果たしているのかがつかめていない。せっかく、たくさんの方のご協力もいただきながら心を込めて作るのだから、ムダなものになってはいけいない、そして職員のコミュニケーションや情報共有に役立ちたい、と思い、WITH の改善に取り組むことにした。	
7	ハイケア 3 つな GIRL	安心の保証 ～つながる安心をめざして～	当病棟では全科の化学療法に携わり、入院件数が約 110 件/月で、他病棟からの日帰り治療件数が約 70 件と、平均件数が述べ 300 件を超えている。治療内容ごとに異なるが、1～3 泊と短期入院をへて自宅で過ごす患者が多い。退院指導の中で副作用出現時の対処方法を説明しているが、症状出現時に不安に思う患者からは昼夜を問わず電話で問い合わせがある。電話対応は症状の緩和方法や安心感をもたらす手段の一つで、患者さんにとっては病院とつながっていると感じてもらえる場面でもある。しかし、対応にあたるスタッフは電話でのみの対応であり、聞き取った内容や記録する内容が現状で網羅されているかという不安・正しい判断ができていないかという不安がある。電話対応の標準化を行うことで対応の統一化ができ、看護師の電話対応に対する不安の軽減が図れ、患者さんの安心感にもつながるのではないかと考え、このテーマを選定した。	最優秀賞

歯止め優秀事例発表				
No	部署	サークル名	テーマ	発表回
1	薬剤部	業務の鉄人B	安心の絆 in 外来化学療法室 The smile saves all ～わたしたちも、ベッドサイドに行きたい。 あなたの笑顔が見たいから…～	第 22 回
2	予防医学センター	やまとなでしこっ隊	受診者の皆様の不安をなくす	第 22 回